

文献 [2, 3] はこの分野で最も広く読まれている基礎文献であり，大学院に入学するまでに必読である<sup>\*1</sup>．特に平安時代の文化との関わり [3, p. 25]，英語と日本語の言語学的関連からの考察 [3, pp. 30–35] は興味深い．また，文献 [4] は新たな分野を拓いた最初の論文であり，当初の問題意識を知るうえで重要である．

## 参考文献

- [1] B. フー, Q. バズ, C. クー『foobar の誕生』保毛太郎訳, 民明書房, 1995.
- [2] Bar Foo, Qux Baz, and Corge Quux. “The birth of foobar”. In: *Journal of Foobar* 255 (1990), pp. 19–454.
- [3] 保毛太郎「ほげと千年紀—foobar の視点から—」『ほげ学会論文誌』100 (2000), 20–42 頁.
- [4] 保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎「ほげとびよの意味論」『ほげ学会論文誌』101 (2001), 53–58 頁.

---

<sup>\*1</sup> [2] は長大な論文であり，和訳が単行本で出ている [1]．